

【事業実績】

1. 次世代の演劇文化の担い手の人材育成・こどものための演劇の普及促進事業

(1) 演劇資料との繋がりをつくるインタラクティブ・パフォーマンス・スペース事業

演劇体験スポット「やってみよう！演じてみよう！」

会期：2019年11月2日(土)～2019年12月25日(水)

会場：早稲田大学演劇博物館2階 企画展示室Ⅱ

映像制作・クロマキー合成技術提供：飯盛雅子、ベクターデザイン

協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場、兵庫県立

尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

来場者：21,732名

来場者の声：「楽しかった」「常設として設置してほしい」など



(2) 世代間交流パフォーマンス事業

「ファミリー・パフォーマンス しげちゃん一座 絵本トーク&ライブショー」の実施

日時：2019年12月24日(火) 14:30～16:30

会場：早稲田大学小野記念講堂

出演：室井滋(文・イラスト・朗読・うた・鍵盤ハーモニカ)、長

谷川義史(イラスト・朗読・うた・ウクレレ)、岡淳(サク

ス・フルート・篠笛)、大友剛(ピアノ・マジック)

参加者：181名

参加者の声：「プロのパフォーマンスを通じて、物語や音楽に親しむ
ことができた(こども)」、「絵本をこどもに伝えるための
手法を知ることができた(大人)」など



(3) こどものためのLGBTQ演劇事業

リーディング公演&トークセッション「こどものためのフライングステージ」の実施

日時：2019年10月23日(水) 18:00～20:00

会場：早稲田小劇場どらま館

内容：公演90分、トークセッション30分

出演：関根信一(演出家・劇作家・俳優、劇団フライングステージ

代表)、石関準(劇団フライングステージ)、岸本啓孝(劇団フ

ライングステージ)、石坂純、木内コギト(＼かむがふ／)、木

村佐都美(おちないリンゴ)、小林将司、清水泰子、芳賀隆宏

トークセッション進行：飛田勘文(演劇博物館助教)

対象：小学生以上～どなたでも

協力：早稲田小劇場どらま館

参加者：56名

参加者の声：「小さい頃からこうした内容に触れると、大人になっても柔軟にLGBT+αの社会を捉えられ
ると思う」「抵抗感をLGBTの身内に対して持っている方に届く可能性があるのかなど関心が
深まった」「こども向けの演目を考える中でとても参考になった」など



(4) こども向け展示室セルフガイドの作成事業



エンパク鑑賞ガイド「おしばいにこんにちは」の配布

配布期間：2019年11月2日（土）～12月25日（水）

配布場所：演劇博物館1階廊下、3階廊下

企画・監修：アメリカ・アレナス

協力：岡室美奈子、児玉竜一、埋忠美沙、李思漢、後藤隆基、大内曜

編集：小松佐矢子

デザイン：鈴木晴子

来場者の声：「演劇部に入っているため、とても勉強になり、おもしろかった」「たのしい ドキドキ」
「興味深かった」など

(5) こども向け演劇ワークショップを通じた演劇人育成プロジェクト

演劇創作ワークショップ「こども演劇教室」は、台風19号の接近・上陸に伴い、参加者の安全を考慮してやむを得ず全日程中止とした。以下は、実施するはずであった内容である。

日時：2019年10月12日（土）～14日（月・祝）各日10:00～17:00

会場：早稲田大学構内、早稲田小劇場どらま館

対象：小学校5・6年生、中学校1～3年生

講師：平田オリザ（劇作家、演出家、大阪大学特任教授）

2. 「障がいをもったこども達×演劇」支援事業

(1) 特別支援学校でのアウトリーチ型ワークショップによる演劇鑑賞支援事業

■東京都立志村学園 2019年12月17日（火）（2コマ）＜狂言教室＞

講師：善竹十郎（狂言師）、善竹大二郎（狂言師）

参加者：97名（小学生～高校生／肢体不自由）

■東京都立大泉特別支援学校 2020年1月17日（金）（1コマ）

＜狂言教室＞

講師：善竹十郎（狂言師）、善竹大二郎（狂言師）

参加者：85名（小学生～高校生／肢体不自由、重度重複）

■東京都立町田の丘学園 2020年1月27日（月）（1コマ）

＜狂言教室＞

講師：善竹十郎（狂言師）、善竹大二郎（狂言師）

参加者：50名（小学生～高校生／肢体不自由）

■東京都立あきる野学園 2020年2月10日（月）（1コマ）＜狂言教室＞

講師：善竹十郎（狂言師）、善竹大二郎（狂言師）

参加者：36名（小学4年～高校3年生／肢体不自由）

■東京都立南大沢学園 2020年2月20日（木）（1コマ）

＜常磐津教室＞

講師：常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線方）

参加者：100名（高校1年生／軽度知的障害・発達障害）

■東京都立板橋特別支援学校 2020年2月26日（水）（1コマ）

＜常磐津教室＞

講師：常磐津和英太夫（太夫）、常磐津菊与志郎（三味線方）

参加者：120名（高校2～3年生／知的障害）



参加者の声：「事前に送っていただいた実際の演者の先生方が掲載されている事前学習資料で学習していたこともあり、とても狂言に親しむことができ、笑顔いっぱいの表情から本当に充実した学習ができたことを感じた」「普段より児童・生徒の笑顔が見られた」など

(2) 障がい児のための演劇の指導者育成事業

ワークショップ「ハンター・ハートビートメソッド・ワークショップ」の実施

日時：2019年8月7日（水）～9日（金）各日10:00～17:00

会場：早稲田大学3号館808教室

講師：ケリー・ハンター（フルート・シアター芸術監督）、
キム・アビラ・コンデ（フルート・シアター団員）

通訳：山田カイル（抗原劇場 / 若葉町ウォーフ）

対象：俳優、教師、社会福祉士など

参加者：20名

参加者の声：「円になって座るところからスタートするワークショップは初めてだったため、その場からシェイクスピアの劇の世界に入る、という体験が新鮮だった」「自閉症の方がどのようなことを難しく感じているのかを知ることができた」「ワークショップを自分自身の情熱や深い心の声にしたがって、オリジナルの新しいものとしてつくってゆく大きな勇気と力をケリーさんの存在から与えていただいた」など



3. グローバル化拠点としての演劇博物館の国際発信事業

(1) 展示解説の多言語サービス充実事業

ホームページとQRコード配信システムによる英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語の展示解説を実施。

対象となった展示は以下の通り。

①早稲田大学演劇博物館2019年度秋季企画展「コドモノミライ 現代演劇とこどもたち」

会期：2019年11月2日（土）～12月25日（水）

- ・多言語QRコードパネル合計：48枚（12枚×4言語）
- ・多言語ホームページの開設

来場者：21,732名

②早稲田大学演劇博物館特別展「人形劇、やばい！」

会期：2019年11月14日（木）～12月24日（火）

- ・多言語QRコードパネル合計：24枚（6枚×4言語）
- ・多言語ホームページの開設

来場者：2,717名

来場者の声：「I was impressed」など



(2) 演劇・映像文化発信のグローバル連携事業

国際シンポジウム「日本演劇・映画人の〈台湾時代〉—植民地舞台にみる文化的交錯—」の開催

日時：2019年11月13日（水）18:30～20:30

会場：早稲田大学小野記念講堂

登壇者：呉佩珍（台湾・国立政治大学大学院台湾文学研究所
所長）、三澤真美恵（日本大学文理学部教授）、李思漢



(早稲田大学演劇博物館助手)

コメンテーター：細井尚子（立教大学異文化コミュニケーション
学部教授）、後藤隆基（早稲田大学演劇博物館助教）
協力：台湾・国立政治大学大学院台湾文学研究所、日本大学、
立教大学アジア地域研究所

参加者：205名

参加者の声：「講演にくださった方のお話自体非常に面白かった」「とても貴重なシンポジウムだった」
『論文集』は日本語と中文があり親切」など

4. 多様な演劇・映像文化の普及と発展を目的としたユニークベニューとしての演劇博物館促進事業

(1) ユニークベニューとしての演劇博物館活用事業

野外無声映画上映会「エンパクシネマ vol.3」の開催

日時：2019年10月1日（火）18:30～20:30

会場：早稲田大学演劇博物館前舞台

出演：澤登翠（活動写真弁士）、山城秀之（活動写真弁士）、
山内菜々子（活動写真弁士）、湯浅ジョウイチ（ギター）、
鈴木真紀子（フルート）

協力：マツダ映画社、鈴木映画

参加者：456名

参加者の声：「初めて活動写真を見たが、とても心が動かされる表現方法だと感じた」「戦前の日本でこんなに質の高いアニメ映画があったことに驚いた」「このような映画鑑賞する機会はありませんので良かった」「有意義な催しで今後も続けてほしい」など



(2) 「新宿区内の博物館の発信力の向上を目指すセミナー」事業

■第1回

日時：2019年6月19日（水）10:30～11:30

会場：早稲田大学6号館318教室

講師：岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）

参加者：41名

■第2回

日時：2019年7月17日（水）10:30～11:30

会場：早稲田大学6号館318教室

講師：児玉竜一（早稲田大学演劇博物館副館長）

参加者：39名

■第3回

日時：2019年10月30日（水）14:30～15:45

会場：早稲田大学6号館318教室

講師：成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員）

参加者：30名

■第4回

日時：2019年11月27日（水）14:30～15:45

会場：早稲田大学6号館318教室



講師：西野嘉章（東京大学総合研究博物館特任教授・インターメディアテク館長）

参加者：32名

参加者の声：「集客や、宣伝の大切さが理解できた」（第1回）、「コレクションの収集ポリシーが興味深く、その作成・公開を希望する」（第2回）、「新しい視点を得られて非常に有意義だった」（第3回）、「21世紀型のネットワークミュージアムが出来る様子が興味深い内容だった」（第4回）、「「展示論」としても、企画を含めよかった」（全体を通じて）など

(3) 「名作シナリオを楽しむ」事業

「名作シナリオを楽しもう 傑作ドラマ『アフリカの夜』ふたたび!」の開催

日時：2019年5月13日（月）18:30~20:30

会場：早稲田大学小野記念講堂

登壇者：大石静（脚本家）、室井滋（俳優・エッセイスト）、ともさかりえ（俳優）、山口雅俊（プロデューサー、監督）、宮本理江子（ドラマディレクター）、柚木麻子（作家）

司会：岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館 館長）

協力：株式会社フジテレビジョン

参加者：191名

参加者の声：「シナリオを見てから映像を流していただいたため、非常に話がわかりやすく、見ながら『ここがシナリオのここなんだ』と納得することができた。構成が良かったと思う」「ドラマの裏話が聞けるこの企画は本当に素晴らしい」「テレビドラマをスクリーンで見ることで、重みが増し、普段は『作品』として向き合うことが少ないテレビドラマを歴史の中の作品として見ることで面白かった」など



(4) 博物館・美術館に向けたインクルーシブ教育発信事業

「エンパクに虹をかける—LGBTQ 入門」の開催

日時：2019年7月15日（月・祝）14:30~17:00

会場：早稲田大学小野記念講堂

登壇者：マサキトセ（ライター）、大賀一樹（早稲田大学GSセンター専門職員）

司会：久保豊（早稲田大学演劇博物館助教）

協力：早稲田大学GSセンター

参加者：108名

参加者の声：「ジェンダー、セクシュアリティに関してイベントが行われること、もしくは行う方がいらっしゃることで、そしてそれを”許可”する姿勢があることに、嬉しい驚きがあった」「今まで接したことがない新しい視点でLGBTと接することが出来たと思う」「『ということになっている』という切り口から、性の規範やカミングアウト、ジェンダーなど、非常にシゲキ的な内容で、今回の内容をぜひ後学に活かしたいと思う」など



5. 地域内コミュニケーション活性化事業

(1) モノが生み出すコミュニケーションについて考えるプロジェクト

特別展「人形劇、やばい!」の開催



会期：2019年11月14日（木）～12月24日（火）

会場：早稲田大学歴史館 企画展示ルーム（早稲田キャンパス1号館）

企画協力：菊地浩平（人形文化研究者）

後援：新宿区、NPO法人日本ウニマ（国際人形劇連盟日本センター）、
一般社団法人 全国専門人形劇団協議会

来場者：2,717名

来場者の声：「希少な品々で濃い内容」「芸術的な表現であったと同時に政治的な表現をしてきた人形劇が、
現代の日本であえて人形に表現させる理由は何かと考えた」「人形劇が怖かったとかトラウマにな
ったというのがよくわかる展示だった」「黄色が効果的な解説パネルで展示空間が楽しい」「糸
あやつり人形の体験したけど難しい」など

以 上